

2004 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 5 年 3 月 9 日 作 成)

委員会名	室内音響研究 WG	主 査 名：中川 清
所属本委員会 (所属運営委員会)	音環境小委員会	委員長名：藤本 一壽
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>目的：室内音響全般にわたり研究上のトピックスを取上げ、シンポジウムを企画し、この分野の研究の活性化を図る。合わせて、3 SWGにおいて研究または実務レベルの音響設計手法を確立または音響データを提供する。</p> <p>2004 年度計画：</p> <p>1.室内音響 WG：研究上にトピック、SWG の進め方を検討し、大会オーガナイズドセッション及びシンポジウムを企画・支援する。</p> <p>1.音響指標測定 SWG：各種提案されている室内音響指標の中で、残響時間に次いで重要と判断される G(ストレングス)を取り上げ、G の現場測定方法に起因する誤差およびその程度を明らかにして、誤差が少ない測定方法を提案する。</p> <p>2.音声伝送品質研究 SWG：建築、都市空間等の計画設計に適用できる音声伝送評価・設計手法の確立に向けて、(1)音声伝送品質に関わる主観評価指標、(2)電機音響設備のあり方、(3)高齢者社会に配慮した音声伝送、(4)インパルス応答データベースの公開とデータ集、について検討を進める。</p> <p>3.学校の音環境に関する研究 SWG：小中学校を対象に、音環境問題の現況把握と問題点の抽出検討を行い、快適な音環境の実現に寄与できる基礎資料を作成する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員 15 名 オブザーバ 3 名</p> <p>[主査] 中川清(清水建設技研)</p> <p>[幹事] 渡辺充敏(大林組技研)、羽入敏樹(日本大学短期大学)</p> <p>[委員] 飯田一博(松下通信工業マルチメディアソリューション研究所)、石田康二(小野測器 SV 事業部)、岩瀬昭雄(新潟大学工学部)、小口恵二(永田音響設計)、織田慎一(NHK 技術局)、河合康人(関西大学工学部)、岸永伸二(ヤマハアドバンスシステム開発センター)、佐藤史明(千葉工業大学建築学部)、西川嘉雄(鴻池組技研)、田端淳(大成建設技術センター技研)、福山忠雄(戸田建設技研)、森本政之(神戸大学工学部)</p> <p>[オブザーバ] 古賀貴士(鹿島建設技研)、関口克明(日本大学理工学部)、吉村純一(小林理学研究所)</p>	
設置 SWG (SWG 名：目的)	<p>1.音響指標測定 SWG (主査：佐藤史明)</p> <p>2.音声伝送品質研究 SWG (主査：西川嘉雄)</p> <p>3.学校の音環境に関する研究 SWG (主査：福山忠雄)</p>	
2004 年度予算	126,000 円	

項 目	自己評価
-----	------

<p>委員会活動状況 (開催日・参加人数)</p>	<p>2003/05/25 5名 2003/06/28 5名 2003/08/19 5名 2003/10/15 5名 2004/02/10 6名</p>
<p>得られた成果</p>	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1. 室内音響研究 WG：関連音響測定法、関連国際学会の研究動向の議論とシンポジウム企画について議論を進め、2004年度には1件のシンポジウムを開催した(その他1件は次年度に開催予定)。2004年度大会のオーガナイズドセッション[学校の音響]に対して、学校施設の音環境アカデミックスタンダードSWGと連携して企画からプログラム編成、講演者の依頼までを遂行した。</p> <p>2. 各SWGの活動成果 3SWGで活発な活動を行い、次の成果を得ている。(SWG活動報告参照)</p> <p>2-1. 音響指標測定SWG： 室内音響の測定法に起因する誤差を検討し、国際シンポジウム(RADS2004)で発表し、成果はHP(英文)で報告した。ストレンクス(G)及び各種の空間評価指標についてカザルスホールで2回の共同測定を実施し、膨大な測定データを得た。解析は次年度に継続して実施する予定。</p> <p>2-2. 音声伝送品質研究SWG： 音声伝送の品質評価できる測定方法確立のため、音源スピーカ、出力、測定ポイント等の各問題の抽出作業を行った。また、室用途と音声コミュニケーションの形態分類表をまとめ、音声伝送評価の設計方法に関する整理を進めた。</p> <p>2-3. 学校の音環境に関する研究SWG：学校の建築計画に関する音環境の現況把握に関連して、(1)学校全体の戸環境に関する問題点の抽出、(2)オープン教室の音環境についての実態把握に基づく検討、(3)音楽教室等の音環境の実態把握に基づく検討、(4)教室の電機音響設備・平面スピーカの使用に関する調査、を行い、活動成果を技術資料としてまとめ中。これらの成果はシンポジウムで報告予定。</p> <p>委員会HPアドレス：</p>
<p>目標の達成度</p>	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>全体としては、年度計画に沿った成果が得られている。 2005年度は、継続してシンポジウムを開催して活動成果を紹介するとともに、関連分野の研究進展に寄与していく。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>特になし。</p>